

ID ^{注1)}	181103	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	171103
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	----	---------------------	--	------	--------

報告書名称 /調査名称	平成29年度 世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査						発行年月/報告年月	
							2018年	9月
							資料形式 ^{注2)}	—

調査機関	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・環境省東北地方環境事務所	委託機関	
------	-----------------------------------	------	--


調査開始年	1999年	6月	調査期間	2017年	6月	～	2017年	11月
-------	-------	----	------	-------	----	---	-------	-----

調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春	夏	秋
---------------------	----	---	---------------------	---	---	---

モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
----------	------------	-------------------	-----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
------------------------	------

核心地域 緩衝地域 周辺地域
 GPS等の位置データあり



調査項目
 ブナ林動態調査
 調査箇所数
 遺産地域内3箇所（ヤナダキサイト、クマゲラサイト、尾根サイト）
 調査面積
 サイト毎に100m×100m
 調査手法
 種子・リター調査以外は年1回実施、種子・リター調査は6月にリタートラップを設置し7～11月リター回収、11月リタートラップ撤収。
 ※平成27年度に関しては道路状況・天候不順の影響でリタートラップの設置を9月に行い、10月～11月にリターの回収を実施した。それ以外の調査項目に関しては例年通りに実施
 <成木>・・・胸高直径 5cm 以上の樹木を対象
 胸高直径、位置
 <低木>・・・樹高 50cm 以上、2m×5m 枠×10 個/サイト
 樹高、地際直径
 <ササ>・・・2m×5m 枠×10 個/サイト
 稈長、地際直径（新規のみ） 生死、群落高
 <実生>・・・高さ 50cm 未満、1m×1m 枠×40 個/サイト
 樹種、生死、高さ
 <種子・リター>・・・0.5 m²のリタートラップ×20 個/サイト
 1 か月ごとに回収、仕分け
 種子数（状態：未熟、虫食い、しいな、健全）、リター量
 <光条件>・・・全天写真
 実生枠（1m×2m）につき一地点、地表、ササの上（2m）

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

<ブナ林>
 3サイトとも典型的な日本海側のブナ林の特徴を示していた。クマゲラサイトの半分は地すべり跡地にあり、胸高直径最大約60cm でサイズのそろったブナが多く、一斉に成立したことを示唆する。尾根サイトでは、最大 120cm にもおよぶ大径のブナがある一方、過去の倒木によって林冠ギャップとなった部分も多いため、小径の樹木密度が非常に高い分布となっている。ヤナダキサイトのブナ林は典型的なブナ原生林の構造といえる。

<低木ササ>
 いずれの調査区でも、オオバクロモジ、オオカメノキ、タムシバといった低木性樹種が大部分を占めている。低木ではどのサイトでも、2006 年から増加傾向を示している。ササについては尾根サイトで2006 年から増加傾向を示している。これは、2004年および 2005 年にこの地方を通過した台風により、林冠木が倒れ、林冠ギャップが形成されたことと対応している。（図なし）

<ブナ種子>
 ブナの種子生産は 各サイトとも2000 年が圧倒的に多く、櫛石尾根では 1 m²あたり 500個を超える種子が落下した。2013 年は各サイトとも久しぶりに結実量が多かった（70個/m²）が、2000年の結実量には遠く及ばなかった。2017年は、健全な種子が尾根サイト1 個/m²、クマゲラサイト1 個/m²、ヤナダキサイト2 2 個/m²と2016年の0 個/m²よりは増加したが4年続けて不作となった。一方で、虫食い種子が、それぞれ6個/m²、4 2 個/m²、4 6 個/m²と健全な種子の2倍から6倍に達した。

<実生>
 各サイトともブナの豊作年の翌 2001年に密度が最大となったが、大量に加入したブナ実生も、1～2年でほとんどが消失し実生密度の増加はごく一時的なものにとどまった。2014年は2013年に健全種子が落下したため、当年生のブナ実生が3サイト平均17個/100m²に増加した。2017年のブナの当年生実生は2016年に健全なブナ種子の落下がなかった（0 個/m²）ため各サイトとも0 個/1 0 0 m²であった。尾根サイトで、当年生ウワミスザクラ実生の密度が増加（16個/100m²）したためブナ以外の実生の密度が顕著に増加（20個/100m²→3 8 個/100m²）した。

問い合わせ	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 事務局長 石橋史朗 office@monitoring.sakura.ne.jp ※「原本（データ）の帰属について」
-------	--

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

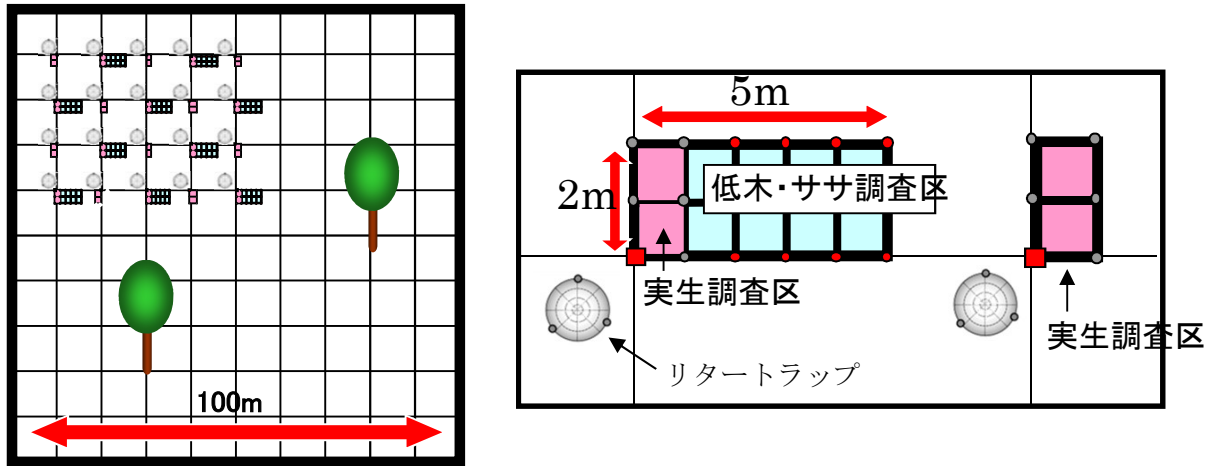


図. コドラート概要図

